



## 新1年生保護者説明会

今日18日(火)は、来年度から入学する新1年生への保護者説明会を行いました。4月から入学予定の新入生の保護者の方々に、各担当の方から学校生活を送る上で大切なことの説明を行いました。私の方からは、帯西の「わくわく」と「帯西レンジャー」の学校の取り組みを紹介しました。小学校は、小さな社会です。その道徳的行為の実践の場で、子供たちが帯西レンジャーと共に活躍すると、学習や行事等で学んだことの意義や自らの成長を実感するのです。その実感は、子供たちの「わくわく」する行動のエネルギーとなり、子供自身が自分で考えて日常生活の改善を図るようになり、学習意欲の向上へと結び付くのです。



新1年生の保護者の皆様に入学前の心得や準備などについて理解を深めていただき、新1年生が安心して入学し、充実して「わくわく」する学校生活を送ることができるよう、準備を進めていきたいと思えます。

新入学児童数は年々減少傾向にあり、悩まされていますが、もし知り合いの方や親戚の方で転居を考えていらっしゃるご家庭がありましたら、是非「わくわく」する学校、帯西を紹介してください!

## 学校とは④共同経営者

私は、これまで海外の教育を実際に見たり、調べたりしていますが、日本は世界と比べても引けを取らない素晴らしい教育活動を展開していると自負しています。日本人の道徳性は世界からの信頼を得ていますが、これは教育によって培われたものです。ただし、世界の教育には参考にしたい事例もあります。例えば、フィンランドの教育です。先進国34カ国で構成されている経済協力開発機構(OECD)が3年ごとに各国の15歳を対象に実施する「学習到達度に関する国際調査(PISA)」にて、フィンランドがどの分野においても安定した好成績を出し、他国よりも突出して教育レベルが高いとの認識が広がりました。その教育の特徴として、生徒が先生の力を借りながら自分自身で問題解決に取り組むことなどが知られています。しかし、教育レベルを上げている最大の要因は、教員の競争率が高く、教員は高待遇で社会的地位も医者や弁護士と同等で保障されていることだと考えます。

教育界では「子供をダメにする簡単な方法は、先生の悪口を言うことである」ということが知られています。子供たちにとって教員は最も身近な存在です。学校にはたくさんの子供たちがいて、一人一人が育った家庭環境・生活背景によって、当然性格も十人十色です。教員は、そうした子供たち同士の関係をうまく調整しながら、様々な活動を通して集団の中の一人一人を成長させていきます。何よりも、子供たちを健やかな成長に導くには、家庭と学校との信頼関係が欠かせません。その信頼関係を崩すように、保護者が我が子に向かって教員を否定するような発言をすると、その子供と教員との関係に溝ができてしまいます。子供たちが意欲的に学校生活を送るためには、教員に対して敬意・好意の気持ちを抱くことが必要不可欠です。しかし、保護者が「あの先生は……」と不満や悪口を述べると、負のスパイラルが待っているのです。【この続きは近日配信します】

